

「変わりゆく気候と近年の異常気象 — 海の役割・市民の役割 —」

近年、日本では台風や線状降水帯による豪雨など

気象災害の激甚化が問題となっています。

温暖化の影響が指摘されていますが、何が起きているのでしょうか？

エルニーニョ現象という言葉もよく耳にしますがどう関係するのでしょうか？

これらの問題に対する研究者の活動を「海の役割」の重要性に触れながら紹介します。

そして、もう1つ、その研究の推進に必要な、本講演会に参加されている皆さんに

期待されている役割についてもお伝えします。

2月10日(土) 午後2時～4時(開場1時30分)



市民交流センター 第2・3会議室

講師：米山 邦夫(よねやま くにお) 博士

国立研究開発法人海洋研究開発機構 地球環境部門

現場主義を貫き、20年以上に渡りインド洋や太平洋の熱帯域に船でかけ、観測を行ってきた。近年はインドネシアやフィリピンなど熱帯島嶼域を舞台にした国際プロジェクトを推進。そして現在は国連の専門機関の1つである世界気象機関の科学運営委員会のメンバーとして、地球規模で行う活動の計画立案に携わっている。

【参加方法】

申込は不要です 直接会場までお越しください

※託児、手話通訳・要約筆記希望者は1月19日(金)までに

逗子市環境都市課までお申し込みください

【問合せ】

逗子市環境都市課 TEL:046-873-1111(内線456)

ずしし環境会議二酸化炭素削減部会

Email: satoshi.tsukioka@gmail.com



かんきょう講演会

検索

2/14Youtube に掲載予定です